

## 令和5年度第1回高知県健康づくり推進協議会 議事要旨

日時：令和5年6月15日（木）18:30～20:30

場所：高知共済会館 COMMUNITY SQUARE 3階 大ホール「桜」

方法：対面とオンライン（Zoom）の併用開催

出席者：出席16名、代理出席2名、県教育委員会1名、事務局7名、オブザーバー8名

### 議題（1）令和4年高知県県民健康・栄養調査について

事務局より別冊「令和4年高知県県民健康・栄養調査の概要」をもとに調査概要について説明を行った。

#### 【質疑等】

- ・質疑なし

### 議事（2）第4期高知県健康増進計画（よさこい健康プラン21）の達成状況及び令和5年度の取組について

事務局より資料1、2-1、2-2、補足資料をもとに達成状況等について説明を行った。

#### 【質疑等】

#### ■「基本目標」の指標

- ・委員より、目標達成状況の評価が分かりにくく、Aという評価でも目標には達していない等、表現が気になる。今後、目標に対する最終報告としてのまとめ方等の考え方を整理してほしいという意見があり、事務局から、日本一の健康長寿県構想のPDCAにおいては、更に細分化した5段階で評価しているが、細かく分けると分かりにくいという意見もあり、今回は傾向が分かりやすいよう3段階とした。計画策定段階では、目標を達成できていないものについて、達成するための方向性等の議論を進めていきたいと考えている旨回答した。

#### ■「子どもの頃からの健康的な生活習慣の定着」「働きざかりの健康づくりの推進」の指標

- ・委員より、児童に配布しているタブレットによる児童の運動量の減少や家庭での使用状況について質問があり、県教育委員会から、家庭学習に使用している市町村もあるが、基本的に学校で使用するということが多いため、タブレットの配布によって運動量が落ちるといった声は聞こえていない旨回答した。

#### ■「生活習慣病の発症予防と重症化予防対策」「分野ごとの健康づくりの推進」の指標

- ・委員より、HbA1c7.0%以上で全国と比較しているとのことだが、本県は高齢化率が高く、厳重な血糖コントロールをしない方向に向かっているため、多いのは仕方がないところもあると思う。また、糖尿病性腎症による透析患者も高齢化率が高いと全国と対等とはいかないところもあるので、それなりに取り組みの結果が表れているのではないかと感じた。引き続き取り組んでいくことは大事だが、次の指標をまた7.0%以上とす

るかは検討してもいいのではないかという意見があった。

### 議事（3）第5期高知県健康増進計画（よさこい健康プラン21）の基本方針等について

#### ①第5期高知県健康増進計画（よさこい健康プラン21）の基本目標及び基本方針について

#### ②第5期高知県健康増進計画（よさこい健康プラン21）の骨子（案）について

事務局より資料3、4をもとに基本目標及び基本方針について説明を行った。

#### 【質疑】

- ・委員より、新しく追加される「社会環境の質の向上」のうち、「誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備」とはどういうことを想定しているのか教えてほしいとの質問があり、事務局から、様々な方が参加できるように多様な主体と連携し、様々な取り組みを進めていくこと、また、地域の人々が様々な活動に参加して、健康づくりをしていくという意味合いも入っている。今後、計画策定の中で理解してもらえるような目標の設定、取り組みの明示をするよう心がける旨回答した。
- ・委員より、骨粗鬆症対策は健康寿命と密接に関係している。年齢に応じて対策が変わってくるが予防対策と治療につなげるような対策が重要となってくる。市町村或いは保険者が主体となるかもしれないが、アプローチもよろしく願う。2点目は、国の健康日本21（第三次）に関係することだが、アメリカやヨーロッパではヘルシーシティーズという都市づくりの考え方があり、これは日本でも1990年代から2000年頃に言われていた。ようやく第三次で「社会環境の質の向上」や多様な主体との連携、誰もがアクセスできる環境等が入ってきたという感想を持っている。この機会を捉えて県民運動的に進めてほしいとの意見があり、事務局から、骨粗鬆症は特に女性にとって大きな健康課題であると思っているが、残念ながら本県では十分に取り組みが進んでいない状況であるため、ゼロからスタートするつもりで検討していく。また、新たな概念である「社会環境の質の向上」についても、健康を個人の責任だけにしないという点でも重要だと考えており、どこまで計画に記載するかはこれからになるが、少なくとも12か年の計画になるので、県としての方向性については、ぜひ本協議会でも議論いただきたい。特に男性が運動する機会をどのように構築していくかについては事務局でも頭を悩ませているので、ご意見があればありがたいという意見があった。
- ・委員より、がん対策については予防対策が大事。特に若い世代における子宮頸がんは取り組みを強化してほしい。また、COPDや肺がんは喫煙対策が遅れている日本で増えてきている疾病の1つ。重点事業として取り組んでほしいとの意見があり、事務局から、健康対策課と連携し、取り組んでいく旨回答した。

### 議事（4）第5期高知県健康増進計画（よさこい健康プラン21）策定スケジュール

事務局より資料5をもとに策定スケジュールについて説明を行った。

#### 【質疑】

- ・委員より、2回目の協議会で目標値を示すとのことだが、今回12年ととても長いので、12年後の目標にするのか、それとも3年くらいで達成すべき目標を設定するのか十分に検討しないと、12年後の目標を設定してもどう取り組んでいいのか分からないになってしまうので、細かく設定した方がいいのではないかという意見があり、事務局から、先ほどの目標に対する状況についてのご意見もいただいたので、その点も踏まえて検討し、示すこととする旨回答した。
- ・委員より、12年後のアウトカム評価（成果を見る指標）は必要としたうえで、短期的に指標をチェックしていくことが必要。もう1点は計画の進捗状況を表すような指標、行政ではKPIと言うが、そういったものを各分野に1、2つぐらい設定して評価していくと、取り組みが進んでいるのか、滞っているのか評価できると思うという意見があった。

#### その他（未発言の委員からひと言ずつ）

- ・委員より、今年度、県民健康・栄養調査の統計学的な視点も入れた評価分析を受託している。次回会議では分析結果も報告できると思う。また、資料1については、委員から意見があったように改善傾向にはあるが目標には達成していないことを誤解されないよう形で評価結果を示してほしい。最後にフレイル対策や認知症対策等の主に介護保険の領域について、本計画の対象ではないかもしれないが、他計画とも連携しながら、フレイル対策や認知症対策につながるような健康づくりを進めてほしい。資料の見せ方や文章等は事務局でまた考えてほしいという意見があった。
- ・委員より、新しい計画を立てるにあたって、よく科学論文等で実験する前に解析方法を決めてから行うというのがある。それを踏まえてではないが、データが出てからどう見えやすくするかを考えるのではなく、先に解析方法を決めて行った方が良いのではないかという意見があった。
- ・委員より、昨年度の子ども専門部会でも意見を出しているが、「朝食を必ず食べる」というのは家庭状況に左右されるのでハードルが高すぎるのではないかと思う。そういった点も踏まえて、専門部会は第2回協議会の前に開催した方がいいのではないかという意見があり、事務局から、検討する旨回答した。
- ・委員より、健康づくりは何かやったらすぐに変わるものではなく、地道にやってこそ成果が出てくるものだと思うので、そこをどう評価していくかがとても重要だと思うという意見があった。
- ・委員より、今年度は厚生労働省から委託を受けた日本看護協会のプログラムの中で外来看護職の質向上を図るプログラムを行う予定になっている。第4期の進捗状況を聞き、外来が非常に重要な意味を持つと考える。また、子どもの頃からの健康的な生活習慣については、先ほどハードルが高いという意見もあり、子どもの出生率も悪くなっているというのは、危機的な状況だと思う。共働きの多い本県では、健康教室等に参加できる

お母さんやひとり親世帯へのアプローチの仕方をもう少し考える必要がある。朝食だけの問題ではないが、朝食を学校で出すなど思い切った対策が必要ではないかという意見があった。

- 委員より、食事内容と栄養素は重要な視点になってくると思う。当会は糖尿病患者の食事指導に関して県から委託を受けて事業を行っている。先ほど委員がHbA1cを7.0%で一律に評価する点について意見があったが、糖尿病治療者のうち7.0%以上の割合というのは糖尿病診療ガイドラインに基づく合併症を起こさないといったことを踏まえた設定と思うという意見があった。
- 委員より、当センターは働く人の心と体の健康づくりに関する様々な事業を展開しているが、今回の評価を当センターの産業保健専門職も興味を持っている。共有し、当センターの事業に活かしていきたいという意見があった。
- 委員より、令和4年度の労働者の定期健康診断結果の有所見率は全国平均が57.5%、本県が66.3%と8%くらい高く、全国で7番目に高い。今年度から第14次労働災害防止計画が5か年で始まっているが、その中でも従業員の健康管理、それから運動習慣の意識づけ等を周知啓発していくことにしているため、ご協力をお願いするという意見があった。
- 委員より、がん検診のうち職域検診が高い受診率ということは知っているが、がん対策推進基本計画の中でも把握する手法というのがあまりなく、個々の職域の数値はどのように算出しているのか教えてほしいという意見があり、事務局から、健康対策課に確認のうえ、後日、回答する旨回答した。  
⇒ (回答) 職域検診におけるがん検診受診率は、県内及び県外の健診実施医療機関に協力を得て、県独自で実施している調査。令和5年度は44医療機関(県内:40、県外:4)で実施している。
- 委員より、健康づくり婦人会の会員は専門的な知識を何も持ち合わせていないが、特定健診の受診率を上げるには、私たちのような人の声かけが一番効果的だと言われている。今年度の当会の取り組みとして、基本的にはがん検診になるが、ピンクリボン運動に賛同して、ピンクのアサガオを植えてもらい、咲いたら検診を受けましょうという運動を行うこととしている。今年度は全県下18市町村に種を配布するという意見があった。
- 委員より、今年度は朝食の摂取率が低い学校で重点的に食育講座を実施することとしているが、先ほども意見があったように朝食を食べないのは家庭環境もあると思う。子どもが食べたくないから食わずに学校に行くわけではなく、親も食べていない家庭が多いと思う。そういった家庭にどうアピールしていくか悩んでいるという意見があった。
- 委員より、歩くことが重要だと考えており、県民にアピールするためにも県職員の階段利用を積極的に促してはどうか。県がこういった取り組みをすれば各企業もやってみようと思う。電気代も上がっているので、節電対策にもなる。職員の健康づくりの観点

からもぜひ庁議で発言をお願いするという意見があり、事務局から、県庁本庁舎には階段を利用することで健康づくりにつながるといった内容を掲示しているが、随分前から行っており、存在感が薄れてきていると思うので、機会を捉えてアナウンスをしていく旨回答した。

- ・委員より、健康運動指導士は、小学生からお年寄りまで健康指導をしているが、基本的に楽しくなければ運動しない、限界突破しないという風に思って指導をしている。そういったアピールをできるのが私たちの強みだと思っているので、また何らかの形で活躍できることがあれば願います。
- ・委員より、健康パスポートアプリで動画視聴によりポイントが付与されるようになっているが、YouTubeはCM会社が作成されたのか。また、YouTubeのアカウントがその制作会社のもとなっており、YouTubeの仕組み上、県民が視聴すればその会社の収益になってしまう。公平性の観点から、県のアカウントで動画を投稿するべきではないかという意見があり、事務局から、高知家健康チャレンジの委託事業の中で制作した動画を掲載している旨を報告し、今年度実施する際はアカウントについて検討する旨回答した。
- ・委員より、みなし健診の事業が始まって3年ほど経過したが、協力してくれている医療機関が固定化されている印象がある。県医師会と協力し、医療機関を増やすことで、特定健診の受診率も少しずつ向上していくのではないかという意見があり、委員から、県医師会としてもみなし健診の事業はもちろん大事だと考えている。しかし、全項目が揃っていないと提出できないため、そこを改善する方法があれば取り組みやすいと思う。そこを緩くすることがいいかどうかは分からないが、それにより取り組みが広がるのではないか、そこを検討してほしいという意見があった。
- ・委員より、子どもに関する取り組みについて、次の計画の目標を設定する時に、目標値があまりに高すぎてもいけないと思っており、検討する必要がある。子どもに関する指標は、家庭や地域、そして学校が連携して取り組まなければならないもので、学校だけが頑張っても難しい。1～2%上げるのも難しい状況があると思う。もう1点は、達成状況を見ると女子の運動やスポーツを習慣的にしている割合が高くなっている。なぜ女子だけが向上したのか、非常に興味がある。こういったところを追及して、計画策定につなげてほしいという意見があり、事務局から、意見いただきありがたい。子どもの頃からの健康づくりについては、食育推進協議会という会もあり、その中でも朝食の摂取率等の目標設定について高すぎるのではないかという意見をもらっているので、検討していく旨回答した。

以上をもって閉会とした。